

○ 本校の概要

・児童数：650名 学級数：21学級（令和5年4月7日現在）
 ・大森第二小学校と大森第六小学校が統合して「開桜小学校」となり、今年度開校22周年を迎える。
 ・行事や学習を通して、地域に開かれ、共に歩む学校を目指し、地域の特色を生かした教育活動を行っている。（町工場・商店街・こらぼ大森の見学、内川学習、海苔つけ体験、稚魚放流体験、外国人留学生との交流、キャリア教育、園芸・読書ボランティアとの活動等）
 ・令和3年度から、授業スタイルに「ハンドサイン」を導入して、主体的に授業に取り組んでいる。また、「魔法の盛り方」についても、全校全体で取り組んでいる。
 ・令和4年度から、7つの習慣の考え方を生かした学習指導、学年指導、学校経営を推進している。
 ・令和5年度は、学校・家庭との連携強化を図り、教育効果を上げていく。

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善案	学校関係者記入欄			
								評価	人数	コメント	
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々のコミュニケーション能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。	4	A4:「学校は楽しい」とアンケートで回答した児童の割合が90%以上。 B4:「自分の考えを伝えたり、様々な違いを尊重したりできる子供に育っている」とアンケートで回答した保護者の割合が90%以上。	4	△すべての児童にとって、楽しくメリハリのある学校を目指して、教職員一人ひとりが推進した。特に以下の3点を意識した。 ①主体的に取り組む(自分自身のリーダーになる) ②先生や友達との関わりが楽しい ③勉強がわかる	A	10	・子供たちとのコミュニケーションには、一人ひとりの会話が重要で積極的に取組を継続してもらいたい。(家庭での会話が少なくなってきたりするようです。) ・9割以上の子供が、「学校が楽しい」と答えていて、素晴らしいと思う。4年間のコロナ禍でリモートだったマスク生活だったり、自分の気持ちをきちんと言葉で表現することが少なかったと思うので、その力を十分に育てる取組が良いと思う。	
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのみのつくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。	3	4:80%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 3:70%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。	3	△ペア学習、グループ学習や縦割り班の活動を積極的に展開する。	B		・学校は楽しいと思える場所であることが大事である。 ・学校の働きかけと児童への定着には、まだ若干の差があると思います。が、続けていっていき児童が取り組む姿勢に期待したいです。意識して取り組める子供が増えるといいですね。 ・校長を筆頭に教員が「リーダー・イン・ミー」を実践して、子供たちにも伝わりやすいように先生の努力を期待します。	
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。	2	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。	2	△ハンドサインを活用して、自分の考えを活用したり、タブレット端末を活用したりして、学習をより積極的に行なった。	C		◆学校の教育活動の学校評価や地域での評価が、より具体的に数値化できるように仕組みを作る必要があると考える。(コミュニティー・スクールなど)	
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。	1	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。	1	A1:70%未満。 B1:70%未満。				
プラン2 児童・生徒一人ひとりの学力を高め、確かな学力を定着させます。	児童・生徒一人ひとりの学力を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまづきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。	4	A4:当該学年の四則計算の定着度及び漢字検定の合格率が85%以上。 B4:「子供は基礎学力が身につけている」とアンケートで回答した保護者の割合が90%以上。	4	△自分自身がリーダーになる児童の育成。7つの習慣を取り入れて教科学習の充実(国語・体育)を研究主題として校内研究を推進した。	A	7	・児童が学校が楽しいという子供が増えたことは、よいことだと思われ、学力向上につながると思います。 ・補習教室の実施で、学力の底上げが行われているのは良いと思う。 ・学力向上に向けての指導が重要である。	
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2〜3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	3	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。	3	A3:80%以上。 B3:80%以上。	△大田区学習効果測定等の結果から、授業改善プランを作成し、日々の授業改善を促しながら、学力の定着を図った。	B	3	・数値に現れない「見えぬ学力」づくりに開桜小の先生方も地域も取組んでいると思う、その点でも点数を付けるならば99点だと思います。
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。	2	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。	2	A2:70%以上。 B2:70%以上。	△タブレットを積極的に活用し、学習効果を図った。	C		◆基礎・基本の定着を図るため、家庭教育の充実など、粘り強く取り組む仕組みを構築していく。
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。	1	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。	1	A1:70%未満。 B1:70%未満。				
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心を育みます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。	4	A4:開桜小生活スタンダードの定着度が90%以上。 B4:「一人一人を大切にしたい」とアンケートで回答した保護者の割合が90%以上。	4	△道徳教育で良い悪いをはっきり教え、良いことはみんなの前で発表したり、賞状をあげたりしてほしいかですか。 ・学校と家庭が、地域を含めて見守る体制が出てきているのが良いと思う。校種をきちんとかかってくる子供たちがほとんどで、高学年になっても、変わらず校種をかかっている子供を見ると、落ち着いて生活できているのだと思う。	A	7	・人思いの気持ち、いじめのない学校生活が重要である。 ・家庭や地域とのコミュニケーションは、難しいことかと思いますが、校長先生をはじめ機軸に対応してくださっているとありがたい。	
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、園、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に1回(年間3回)以上行った。 3:学期に1回以上行った。 2:年度間に1回以上行った。	3	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。	3	A3:80%以上。 B3:80%以上。	△道徳授業地区公開講座では、昨年に引き続き渡邊尚久氏を招聘し、リーダー・ミーア7つの習慣について、理解を深める取り組みを継続して行った。	B	3	◆引き続き家庭や地域との連携強化に努め、継続的に取り組んでいく。
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。	2	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。	2	A2:70%以上。 B2:70%以上。	△学校生活調査、いじめアンケートや日々の児童の変化を見逃さないよう、未然防止、早期発見に努めた。	C		「奮める」をテーマに、一人一人の子供に接していると思いたい。
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておたの会議を実施した。 2:必要な事案に対しておたの会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	1	4:「指導を工夫し、徹底できた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。	1	A1:70%未満。 B1:70%未満。				
プラン4 体力増進の向上と健康の	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。	4	A4:「運動することが好きである」とアンケートで回答した児童の割合が90%以上。 B4:「健康教育の取組を推進している」とアンケートで回答した保護者の割合が90%以上。	4	△体育の授業、中休み、昼休み、放課後の時間をコロナ前に戻し、実施した。	A	7	・コロナの為で、運動不足になった子供たちをより多く遊ばせてほしい。 ・元気に校庭で遊んでいる子供たちを見るのができて、良いと思います。	
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらった「食育」を推進する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。	3	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。	3	A3:80%以上。 B3:80%以上。	△開桜小健康チャレンジ月間は長編、短編を実施した。	B	2	・スポーツを通しての体力向上が重要である。
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。	2	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。	2	A2:70%以上。 B2:70%以上。	△今年度も、オリンピック開花観戦さん走り方教室、キャリア教育を行い、今年度は2学年で実施した。	C	1	・運動会などでは、校長先生自ら先頭に立ち体を動かして、リードしている姿とても感心し、よいことだと思います。
		東京2020オリンピック・パラリンピックのレガシーをパリ・オリンピックにつなげていく。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。	1	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。	1	A1:70%未満。 B1:70%未満。	◆家族や親子で運動を習慣化するような取組を計画中である。	D		
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境づくり。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。	4	A4:「授業が楽しくわかりやすい」とアンケートで回答した児童の割合が90%以上。 B4:「学習活動を工夫して、わかりやすく教えている」とアンケートで回答した保護者の割合が90%以上。	4	△教師自身が自己研鑽をしたり、区内外の研修会に積極的に参加したりして、授業力の向上に努めた。	A	8	・教師自身が若いので、研修の内容で、いろいろな仕事の体験も必要ではないかと思う。 ・児童数も多く、教室いっぱいの子供を見ると、先生方のご苦労が伺えます。学年によっては、4クラスで少し余裕があるクラスを見ると、先生の指導が入りやすくなると思います。	
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2〜3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。	3	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。	3	A3:80%以上。 B3:80%以上。	△校内OJTを実施し、互いに学び合う機会を設定し、学びを深め合った。	B	2	・何らかの授業公開の様子を見て頂きましたが、先生方が各々、いろいろな工夫されて取り組まれていることに感心いたしました。 ・教員の児童に対する接し方が重要である。
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:月1回以上行った。 3:学期に2〜3回行った。 2:学期1回以上行った。	2	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。	2	A2:70%以上。 B2:70%以上。	◆教師自身が、研修と修養に務め、日々自己研鑽していただくことが重要である。	C		
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。	1	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。	1	A1:70%未満。 B1:70%未満。				
プラン6 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指す。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指す。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:1回以上更新した。 3:学期に2〜3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4	A4:「学校は積極的に情報発信している」とアンケートで回答した保護者の割合が95%以上。 B4:「地域や外部人材を活用した学習を推進している」とアンケートで回答した保護者の割合が95%以上。	4	△今年度は、特に学校・家庭との連携強化を教育活動の柱の一つとして教育活動を実施した。	A	7	・これからは、多くのイベントに参加してもらいたいと思う。 ・学校・家庭・地域と、学校の努力で十分な連携が取れていると思います。 ・町会としてもできるだけ協力しますので、よろしくお願いします。 ・学校に全て任せるとはならず、家庭内の頼もしい存在である。	
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の姿容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:学期に2〜3回行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。	3	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。	3	A3:90%以上。 B3:90%以上。	△保護者のPTA・地域連絡協議会・おやじの会・児童の方々の協力を得て、サマースクール、ポレポレエコまつり、地域行事などを実施した。	B	3	・ポレポレエコまつりや諸行事に校長先生はじめ教職員の皆様にご理解・ご協力下さっていることに深く感謝しております。学校と地域とがしっかり結んで子どもたちを育てていく基礎ともなっていると思います。
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。	2	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。	2	A2:80%以上。 B2:80%以上。	◆教職員の参加を促し、引き続き児童理解や保護者や地域との関係強化を図っていきたい。	C		・子供たちの様子などを定期的に中学校や各団体などに情報共有して素早く対応する校長の行動力は、尊敬しています。「開かれた教育」そのものかと。
		保護者と連携した学習を実施し、家庭との連携強化を図る。	4:「連携強化が図れた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。	1	4:「連携強化が図れた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。	1	A1:80%未満。 B1:80%未満。				

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
 ○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。
 ○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。